

平成 31 年 1 月 16 日

内閣サイバーセキュリティセンター  
重要インフラグループ

## Java実行環境の脆弱性について（注意喚起）

Oracle 社から Java 実行環境の脆弱性に対策済みの最新のバージョンが発表されたので、更新を行ってください。

## 1 概要

Oracle 社から Java 実行環境（JRE : Java Runtime Environment）に関する脆弱性が公表（CVE-2018-11212 等）され、本脆弱性に対応したバージョンが公表されていません。

本脆弱性が悪用された場合、任意のコードが実行される可能性があります。

## 2 対象ソフトウェア

次の Oracle 社製品が対象です。

- ・ Java SE JDK/JRE 8 Update 192 及びそれ以前
- ・ Java SE JDK/JRE 11.0.1 及びそれ以前 等

## 3 対策

JRE を、本脆弱性に対策済みの最新のバージョンに更新してください。

更新方法等につきましては、IPA、JPCERT/CC のページで詳しく紹介されていますので参照してください。

なお、Oracle 社によると今月（2019 年 1 月）をもって商用ユーザーに向けた Java SE 8 の公式アップデートの提供が終了するとのことです。今後、Java SE を継続利用する商用ユーザーは、Oracle 社が提供する情報に注意し、後継のバージョンへの移行等を検討してください。

## 参考 URL

- ・ Oracle Java の脆弱性対策について (CVE-2018-11212 等) (IPA)  
<https://www.ipa.go.jp/security/ciadr/vul/20190116-jre.html>
- ・ 2019 年 1 月 Oracle 製品のクリティカルパッチアップデートに関する注意喚起 (JPCERT/CC)  
<https://www.jpcert.or.jp/at/2019/at190002.html>